



山

頭火ふるさと館

SANTOKA
FURUSATO
MUSEUM

10月7日

開館

分け入っても分け入っても青い山

分け入っても分け入っても青い山



山口県防府市宮市町5番13号
※ 防府市まちの駅（うめてらす）西へ約100m

防府市 総合政策部 文化・スポーツ課
山頭火ふるさと館建設室

〒747-0808

山口県防府市桑山二丁目1番1号

Tel : (0835) 25-2018

Fax : (0835) 25-5578

E-mail : sports@city.hofu.yamaguchi.jp



(写真)山頭火生家跡

種田山頭火と“ふるさと”防府

明治15(1882)年、佐波郡西佐波令村(現：防府市八王子)に生まれた種田山頭火(本名：正一)は、日本各地をめぐりながら、旅の途上で1万句余りの自由律俳句を詠みました。

大正5(1916)年の熊本への移住から、昭和15(1940)年に愛媛県松山市で亡くなるまで、再び防府に居を構えることはありませんでしたが、日記にはふるさとを思う気持ちが度々記されており、ふるさとを詠んだ句も150句におよびます。

種田山頭火とその生涯

- 明治15年 大地主種田家の長男として生まれる。
- 明治25年 母フサが自殺。
- 明治35年 早稲田大学文学部文学科に入学。
- 明治37年 早稲田大学を神経衰弱で退学。
- 明治39年 吉敷郡大道村の酒造場を買収、一家で酒造業を始める。
- 明治42年 佐藤サキノと結婚(大正9年に離婚)。
- 明治43年 長男「健」誕生。
- 明治44年 弥生吟社(後の椋鳥会)に参加。「田螺公」の号で活動。
- 大正2年 自由律俳句雑誌『層雲』に句が入選。この頃より「山頭火」の号を使い始める。
- 大正5年 種田酒造が破産。熊本で「雅楽多」という古書店(後の額縁店)を始める。
- 大正8年 単身東京へ。東京市事務員等の仕事に就く。
- 大正12年 関東大震災に被災、熊本へ戻る。
- 大正14年 熊本の曹洞宗報恩寺にて出家得度。同県の味取観音堂瑞泉寺の堂守となる。
- 大正15年 行乞の旅に出立、以後数年間九州を放浪(途中熊本市内の「三八九居」に住む)。
- 昭和7年 山口市小郡町に結庵。「其中庵」と名付ける。
- 昭和13年 山口市湯田、「風来居」に移住。
- 昭和14年 愛媛県松山市で「一草庵」を結庵。
- 昭和15年 10月11日、「一草庵」にて逝去。

山頭火ふるさと館とは

種田山頭火のふるさと防府において、「全国随一の山頭火の顕彰・交流施設」また「自由律俳句の一大拠点施設」として、山頭火のふるさと防府を全国に発信するとともに、全国の山頭火ファンをはじめ防府市に訪れた皆様にも山頭火を知っていただき、山頭火と自由律俳句に親しんでいただける施設です。

防府天満宮にほど近い場所に位置しており、天満宮参詣後に気軽に立ち寄ることが出来ます。また、山頭火が小学校時代に通った道が「山頭火の小径」として残っており、山頭火生家跡から山頭火ふるさと館へと続いています。